

新処分場の概要と今後の事業スケジュールについて

1 新処分場の概要

計画諸元

基本事項	新最終処分場
施設の種類	管理型産業廃棄物最終処分場
建設予定地	大和町鶴巣大平・幕柳地内
埋立期間※1	約 20 年間
開発想定面積	約 40ha(現処分場約 150ha)
埋立面積	約 13ha(現処分場約 60ha)
埋立容量※2	約 230 万 m ³ (現処分場約 1,073 万 m ³)
埋立構造	準好気性埋立構造
浸出水放流先	大和町流域関連公共下水道

備考

※1全国の公共関与型最終処分場の平均埋立期間が約 21.2 年となっているため、次期最終処分場の埋立年数も約 20 年に設定しています。

※2現処分場搬入実績を用いて算出しました。

項目	埋立処分量	概算埋立容量
計画埋立量	1,761,596 m ³	
覆土量	587,199 m ³	
埋立容量	2,348,795 m ³	230 万 m ³

計画位置



2 施設配置の概要

防災調整池

・埋立地周辺に降った雨水が一度に下流に流れないように貯留する施設です。雨水は雨水集排水施設を通り、防災調整池へ導水されます。

浸出水処理施設

・廃棄物に触れた水(浸出水)を処理する施設です。浸出水は法令基準値以下の水質まで処理され、下水放流されます。処理水質は常にモニタリングされます。

集排水施設

・埋立地の底面部や法面部に集排水管を敷設し、浸出水を集めます。

遮水工

・埋立地の底面部や法面部に遮水シートを敷設することで、浸出水が地下水や河川に流出するのを防ぎます。

開発想定区域境界

既存の林地開発区域境界

主要施設等	配置の考え方
埋立地	埋立容量230万 m ³ を確保
浸出水処理施設	埋立地に隣接して配置 浸出水調整設備を設置
管理棟	埋立地近傍に配置
防災調整池	最下流域に配置
残地森林	森林法に基づく林地開発許可申請の手引きに準拠した 残地森林を確保

3 これまでの事業経過等

○県は、令和3年6月、「宮城県黒川郡大和町鶴巣大平・幕柳地内」の現状砕石場として利用される場所を新処分場の最有力候補地として選定したことを公表しました。

○その後、鶴巣各地区の皆様を対象とした住民説明会、意見交換会等を重ねてきました。

○こうした住民協議の経過を踏まえ、令和4年9月27日に県、町、公社の三者による基本協定の締結に至りました。

○公社では、基本協定締結を受け、令和6年度内の新処分場建設工事の着手に向けて、下記の調査・設計業務を発注したところです。

発注済み業務の概要

業 務 名	業 務 概 要	委 託 業 者 名
新処分場基本設計業務	各施設の基本設計及び地形測量等	(株)エックス都市研究所
環境影響評価業務	現地調査及び準備書、評価書作成	(株)復建技術コンサルタント
水文調査及び地質調査業務	周辺井戸水質調査及び地質調査他	(株)エイト日本技術開発

4 今後の事業スケジュール（案）

公社が運営している現処分場の「クリーンプラザみやぎ」については、埋立残余年数が少なくなっていることから、今後、下記のスケジュールに基づき令和9年度内の新処分場の開設を目指して事業を進めてまいります。

事業スケジュール案

